第４学年１組　総合的な学習の時間指導案

日　時　　令和３年１１月１８日（木）２校時
場　所　　４年１組教室　　児童数　３０名
指導者　　教諭　川口寛久

１　単元名　　尾崎人形を伝えよう

２　単元について

（１）単元観（教材について）

本単元は，尾崎地区に７００年も伝わる伝統芸術「尾崎人形」を題材とし，尾崎人形の歴史を知るとともに，本校の４年生に尾崎人形の伝統を伝えてくれる高柳さんと城島さんの思いや願いに触れることで後世に伝えながら，尾崎人形のよさを伝えていくために何ができるかを考え，実践していくものである。尾崎人形は元寇（弘安の役）の時代に捕虜として捕らえられた，モンゴル帝国の人々が，陶器の技法をもとに，ふるさとを思い作ったのが始まりとも言われている。その伝統は１度は途絶えたものの，１９９０年代に八谷先生によって尾崎人形が復活したことで，現在もその歴史が受け継がれるようになった。尾崎人形はいま，作り手も不足しているにも関わらず，尾崎地区に住む者のみがその伝統を継承できることができ自らの住む町で大切にされているこの伝統を絶やさないために，体験活動や工房見学を通して，継承者の願いに目を向けながら，学習を深めることができる題材である。

この単元では，尾崎人形の体験をもとに一人一人がもっと尾崎人形について詳しく知りたい「私の課題」を設定し，佐賀県内でも未だに広がりが少ない課題をもとに資料や体験・講話・工房見学を通して，尾崎人形を広め伝えていくためには，どのような活動が必要なのかについて考えることができる。また，SDGs の観点からも連携性である地域の人とのつながりを意識した学習を展開することで，改めて自分の町に興味や関心をもち，地元を誇れる児童の育成につながると考える。

（２）児童観（児童の実態）

本学級の児童は，1 学期に「尾崎人形を知ろう」という目標のもと，尾崎人形に対するイメージや，お家の方へのインタビューを実施することで尾崎人形の認知度を確かめている。その結果，おうちの方も尾崎人形という存在は知っているものの，作り方，作っている人，尾崎人形の歴史など無知に値することが理解できた。そこで，実際に継承者である，高柳さんや城島さんに講話をしてもらい実際に尾崎人形の歴史や体験をすることで，伝統を守り続ける人の苦労や悩み，願いに目を向けることができるようになってきた。この経験から，児童の中にも「尾崎人形がずっと後世まで残ってほしい」「尾崎人形を多くの人に知ってもらいたい」という感想が増えてきたと思う。

その一方で，尾崎人形をこれまでの学習を踏まえて，自分たちで広めていくという視点が未だに欠けている所である。尾崎人形に対する課題を見つけてはいながらも，自分で行動するという視点ではなく，作り手にしてもらうといった考えをもつ児童が見受けられる。地いきの誇らしいこの伝統を絶やすことなく自分に出来る最大限のことは何かについて明確な行動のイメージを膨らませることができていない状況である。

今後の活動で中心となってくることは，まずは地域の人に尾崎人形を知ってもらうということを目標としている。そのため，パンフレット・新聞・チラシその他情報を拡散できる媒体を駆使するためには，尾崎人形について，どんな情報を収集し整理・分析するとよいか自分たちの力で見分ける能力が必要となってくる。その際，様々な役割が一人一人に設けられる。この学習活動を通して，地域の人，後継者の人との交流を交えていき，他者の価値観や意見に気付くことができる力の育成も合わせてしていきたい。

（３）指導観（指導について）

本単元の導入では，尾崎人形についての認知や自ら関わる人々の認知を確認し，実際に後継者との出会いから，尾崎人形とはどんな歴史や作り方であるのかを気付かせる。そこから実際に体験を踏まえて，感じた後継者の努力と願いに目を向けさせ，「自分たちにできること」について考えを共有させていきたい。

また，尾崎人形が地元の誇れる伝統工芸であることに気付かせ，地元を愛し，発展させるためにはどのような方法があるのか想像し行動に結びつけることのできる児童の育成を図りたい。そのためにも必要な情報収集→整理→分析し，より正確な情報をどういった手段で地域の人に伝えるために様々な視点を持つ中で「自分たちにできることは何か？」という視点をもって学習を深める児童の育成を図る。

3　単元の目標と評価規準，及びSDGｓ・３Ｃとの関連

（１）単元の目標

西郷地区に古くから伝わる「尾崎人形」をまとめた壁新聞作りを通して，「尾崎人形」の価値や，それを支える人々の思いに気付き，「尾崎人形」を未来につなげていくために自分たちにできることを考え行動しようとすることができる。

（２）単元の評価規準，及びSDGｓ・３Ｃとの関連

	本単の評価規準	ＳＤＧｓとの関連	３Ｃとの関連
知識・技能	①尾崎人形作りの体験活動を通して，人形には色，形，大きさなどに違いがあり，時代やニーズに合わせて作られてきたことに気付いている。 ②尾崎人形の歴史を学ぶ活動を通して，人形を後世に残すための先人の努力に気付いている。	 	交流を通し，他者の意見の価値に気付き，それを受け止めている。 ①【Communication】
思考・判断・表現	①尾崎人形に関わる活動を通して課題を設定し，課題解決の方法や手順を考え，見通しをもって計画を立てている。 ②表現方法を選択し，相手や目的に応じて分かりやすくまとめ，図や資料等を効果的に用いて表現している。		身の回りの小さな変化に気付き，すべきことを考え，自分から行動に移している。②【Care】
主体的に学習に取り組む態度	①尾崎人形に関する一連の学習を通して，相手の思いや願いを尊重している。 ②尾崎人形に対して高まった自分の思いや考えを伝えていこうと進んで探究的な活動に関わっている。		成功や失敗を前向きに捉え，自己の成長にいかしている。 ③【Continuity】

4　本時の指導

（１）本時の目標

きてみんしゃい祭りを終えて，地域の人々に尾崎人形を伝えるために情報として不足していることについて意見を出し合い，必要な情報をどのように収集してまとめるか方向性を考える。

（２）本時に位置付けた評価規準

きてみんしゃい祭りでの反省点を振り返り疑問やさらに知りたいことなどから，尾崎人形を地域の人に発信していくために不足している情報を見つけることができる。〈思考・判断・表現〉

（３）展開　（□…評価　Ｂおおむね達成　●達成不十分な児童への手立て）

過程	学習活動	教師の働きかけと評価
つかむ	1　本時のめあてを確認する。	○きてみんしゃい祭り後に書いた振り返りシートを思い出し，地域の人に伝えるため，不足している情報がなかったか考えさせる。
探る	2　グループ学習のことを振り返り，まとめる際に，不足している情報はどんなことがあるか想起する。(付箋) 八谷よしお先生が，尾崎人形を復活させた理由について詳しく知りたい。 尾崎人形の魅力について，発信したいけれど，どんな魅力を伝えていくといいのかな。 高柳さんが尾崎人形を受け継ぐ時のかっとうは，劇でしたようなものだったのかな。 3　情報収集で必要な解決策を出す。	○これまでの尾崎人形の学習で私の疑問となっていることを付箋に書き出し，グループ内でグルーピングをさせこれから学習していく目的を明確にできるようにする。 ○尾崎焼き工房見学後に作成した，画用紙にまとめたことを見ながら，うまくインタビューができていなかったところを確認させ，次の活動から自分たちがどんな情報を集めるとよいか明確になる掲示物を用意する。 ○尾崎人形を全く知らない地域の人が尾崎人形を理解するため，どのような情報を整理するとよいかグループ内で考えさせる。(机間指導)
まとめる	4　グループで不足している内容と解決策について共有する。 5　本時の学習をまとめる。 ・めあてに対する達成状況，進捗状況の確認をする。 ・次の授業の方向性を決める。 ・振り返りをノートに書く。	○グルーピングしたものと解決策を書いた用紙をもとにグループごと発表させ，全体での共有を図り，自分のグループではでなかった考えを比較させることで次の時間の学習活動を明確にする。 ○今日の学習で，分かったことや情報不足であたところについて振り返らせ，次回からの学習では，どのようなことを中心に，情報収集・整理・分析していきたいかを書かせることで，活動への意欲が高まるようにする。

5　本時の考察

・これまでの学習を振り返られる掲示物もあったため，本時のめあてにつなげることがスムーズになり，児童も参加しやすい導入だった。
・学習の進め方のポイントなどを電子黒板で示すことができたが，ＫＪ法の進め方や評価のポイントでは，「付箋の枚数」「友だちの考えに反応する」といった具体的な提示をする必要があった。
・ＫＪ法によって各グループから出された疑問と，その疑問を解決する手立てについて意見交換する時間を設けることで，児童の注目している話題を明確にすることができ，今後の課題にすることができるように工夫すべきだった。

資料１　グループでの話し合い

６　成果と課題

①　成　果

○思考ツールにおける変化

・思考ツールを活用し，自分の考えを整理したり友達の考えと比べたりする児童が増えてきた。
・各教科（国語，社会）でも活用したことで，思考ツールの活用法が身に付き，児童自身が効果を実感しながら活用することができていた。

○教科横断的な学習

資料２　体験活動の様子（型入れ）

・制作体験による活動や工房見学，インタビュー等の学習活動の中で，児童が進んで課題を探究する力が身に付いている。さらに，地域性や社会性についての興味や関心をもつようになり，地域のよさを身近な人に伝えることができるようになった。
・単元ものがたりをもとに，自ら立てた課題をどのように解決していけばよいか計画を立てながら学習を進める様子が見られるようになった。
・国語や社会で地域の良さを広げる学習を行った際にも，尾崎人形の単元で学習してきたことを活かして，課題→予想→精査（体験・調査）→考察（まとめ）の順で課題解決を図る児童が増えてきた。

○振り返りの質の向上

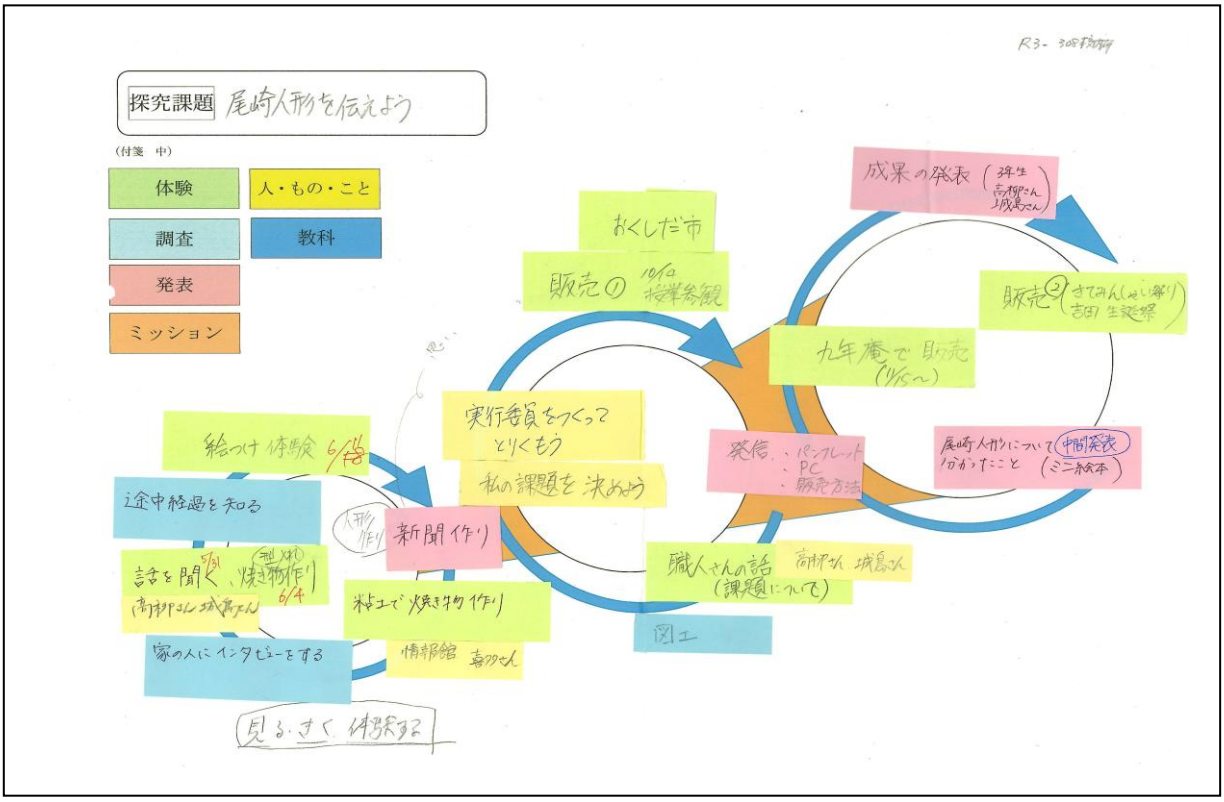
資料３　体験活動の様子（絵付け）

・１学期から２学期までの期間で，振り返りの質が向上した。これまでの振り返りでは，「○○が分かった。」というやや抽象的な内容が多く見られていたが，２学期末頃には，「分かった」の内容も，どのようなことを通して，どのようなことが理解できたのか具体的な内容を振り返ることができる児童が多くなってきた。また，次時の学習でどのような学習をするか等の目標まで考えながら，計画的に探究することのできる児童も増えてきた。

○地域の魅力にせまる思い

資料４　後継者の方への
インタビュー

・西郷地区に伝わる伝統玩具が，流通の中で広がりつつあることを理解すると同時に，佐賀県でも尾崎人形のことを知っている人が少ないことを理解し，体験したことを広めていくためには，どのような広め方があるのか，また，後継者の思いや願いとは何かを考えながら学習を進めることができるようになった。
・地域の伝統工芸を守る後継者との交流を行ったことで，後継者の方のこれまでの苦労や課題，これからの尾崎人形をどのように広げていくか等についての話を聞くことができた。

②　課　題

・情報収集したものを可能な限り発信できる媒体を使うことで，地域の情報発信に留まらず，広範囲に学習の成果を広げる事ができると考える。
・メディアを活用し，学習の成果を広めることで，地域の魅力をさらに発信することができると考える。
・発達段階によるが，実際にネットでの通販サイトを作ったり訪問販売をしたりすることで，多くの人とのコミュニケーションを図ることができるようになると考える。
・伝統工芸を残したり，広めようとしたりしている後継者の方の思いとこれまでの思いについての両視点をもたせることで，児童の学習の意図を明確にすることができると考える。
・「問い」と「課題」などの学習の中で，児童が活用する言葉のイメージを教師が明確にもち，教師と児童とで共有することで，学習活動がねらいに沿うものになると考える。
・児童の設定した課題を解決するための手立てをとることができるようにするために，教師が単元のねらいを明確にしておき，常に意識しておくことが必要である。
・尾崎人形を展示している場所に，リーフレットやパンフレットなどを置いてもらえるように交渉しておくことで，児童自身，目的があってリーフレット作成に取り組めたのではないかと考える。
・中間発表会を学級で定期的に行うことで，これまでの学びを再確認することができるようになるのではないかと考える。
・後継者の方だけでなく，地域の人々とも関わることで，地域の方々が尾崎人形とどのように向き合ってきたのか，尾崎人形は後継者だけでなく，地域の人々にも守られていることなどにも気付くことができたのではないかと考える。